

小型CNGトラックのエンジンコントロールユニットのサービスキャンペーンについて

平成 18年6月22日

（開始日：平成18年6月22日）

平成18年6月16日、日産ディーゼル工業株式会社に車両を供給しているいすゞ自動車株式会社が、下記のサービスキャンペーンを国土交通省に通知しました。対象車両をご愛用のお客様には、大変ご迷惑をおかけしまして誠に申し訳ございませんが、ご愛用車の措置につきましては、販売会社よりご連絡・ご相談をさせていただきますので、点検・修理（無料）をお受けいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。対象車両をご愛用のお客様には大変ご迷惑をおかけいたしましたことを、心よりお詫び申し上げます。

1. 不具合の状況

- 圧縮天然ガス(CNG)自動車において、エンジン制御のプログラム(ECM)が不適切なため、
 - ① P T O作動時等の負荷変動時にエンジン回転保持制御ができないことがあり、エンジン回転が不安定となり、エンストするおそれがあります。
 - ② 燃料温度センサが環境温度に影響されて、実際の燃料の温度よりも高い温度と誤判断し、燃料噴射量を減量し続け、エンストするおそれがあります。
 - ③ スロットルモータの電源回路が断線状態となった場合、バックアップモードに移行し通常走行を確保するプログラムにおいて、車両が停止状態においてギヤがニュートラルで、アクセルペダルを踏んでない時にバックアップモードプログラムに移行しないため、スロットル開度がデフォルト値（初期設定）の設定となり、エンジン回転が高くなるおそれがあります。
 - ④ ECM内部の点火系の I C回路が90℃に達した際に、断線信号を発する制御となっているため、冷凍機架装等でエンジンの水温が高くなった際に、エンジン警告灯が誤点灯するおそれがあります。
 - ⑤ エンジン温間時に再始動した場合、エンジンが完全に暖気していない不安定な状態で空燃比センサの故障診断を行う制御となっているため、当該センサの抵抗値の変化をセンサの断線と誤認識し、エンジン警告灯が点灯するおそれがあります。
 - ⑥ ギヤがニュートラルの状態ですばかしの状態で行いエンジンを高回転にすると、高回転域の状態ですばかしの時のスロットル開度を学習することがあり、スロットルを閉じた際に、スロットルを閉じすぎるため、アイドル回転が低下しすぎるおそれがあります。
 - ⑦ アクセルOFFの減速時は燃料を無噴射とし、減速後の加速時に燃料噴射量を一定量に固定していたことから、一定条件下で特定の気筒で燃料が噴射されず、エンジンの吹き上がりが悪くなるおそれがあります。

2. 改善の内容

- 全車両、エンジンコントロールユニットを対策品に交換、又はプログラムを書き換えます。

3. 対象車両

- いすゞ自動車株式会社が製作し、日産ディーゼル工業株式会社が販売している小型CNGトラックが対象です。
- 通称名はコンドルです。
- 型式、車台番号の範囲、製作期間、対象台数は次の通りです。

型式	サービスキャンペーン対象車の車台番号の範囲 及び製作期間	対象台数
AFG-BKR82AN AFG-BKR82N	BKR82-7000001～BKR82-7000021 平成17年5月31日～平成18年2月1日	21
AFG-BPR82AN AFG-BPR82N	BPR82-7000001～BPR82-7000004 平成17年6月1日～平成18年1月7日	4
計4型式	製作期間の全体の範囲 平成17年5月31日～平成18年2月1日	合計25台

<ご注意>

- 対象車両の含まれる車台番号の範囲には、対象とならない車両もありますので詳しくは最寄りの日産ディーゼル販売会社にお問い合わせください。
- 対象車両の製作期間はご購入の時期とは異なります。